

修路工夫と渡船夫の表彰

柳 樂 義 雄

大東亞戰爭下初に迎ふる紀元の佳節に際り島根縣に於ては永年
勲績したる修路工夫十一名と縣營渡船夫四名の表彰が行はれた。

修路工夫の表彰は各府縣に於ても行はれ又道路改良會からも表
彰せられて居ることは本誌上にもよく見る所である。然し渡船夫
の表彰は寡聞にして未だ其の例を他地方にも見ず本縣としても今
回が初めてのことである。

昨年七月の降雨出水は本縣に於ても相當なる被害があり、其の
調査や善後策に忙殺せられた、丁度土用の央予は中國太郎の名あ
る江川沿岸の災害地を視察した當時、出水は實に九、五米に及び邑
智郡吾郷村所在府縣道粕洲川本線に設置せる岡田式渡船場へ貨物
自動車に貨物を満載し其儘渡す設備ある渡船の渡船夫品川民次
郎君自身にも大なる被害があつた。夫れは永年住み馴れた番小屋
が一夜の内に流失したる慘事である、愛用の鍋釜は流れ寢具は水
浸しと爲り見るも氣の毒な有様であつた。然し當の本人は陽焼け

のした顔に何の屈托もなく折から曳いて來た荷車に満載した稻の
追肥や時局柄印刷局に急いで納付すべき三極皮や對岸三江線築瀨
驛に積み出す軍用材等山積し眼まぐるしくも之を渡して居つた。

予は此の炎天下僅かの渡船夫給に甘んじ河幅一一〇米の江川の急
流を右岸から左岸に左岸から右岸に晴雨、晝夜の別もなく一日數
十回の往復をやつてのけ、明治四十二年村營渡船に端を發し、郡
道と替り郡制廢止後府縣道に認定せられ今日に至る迄實に三十三年
間の久しきに互り他の誘惑にも惑はず、渡守としての職責を盡
しつゝあるのである。今此の渡船の客となり君の顔を見上げた時
思はず眼頭の熱くなるを覺え節くれたつた胼のある手を固く握つ
て感謝の誠を表した握られた品川君は予が縣の道路係の者と知り
同じ道を歩む者と聞くや之亦涙を流して喜んで呉れた、之れが此
の佳節に表彰となつた主なる動機であつた。

由來島根縣は東は鳥取縣西は山口縣に接し東西に長く南は中國

山脈の脊嶺により廣島縣に境し北は日本海を控へ隱岐の孤島を抱いて居る關係上急流多く府縣道中今尙九ヶ所の渡船場がある。今同九人の渡船夫中十年以上勤続したる四名が表彰せられ、品川君は三十三年の勤続者である反田伊太郎君の四十五年青木六市君の三十九年に次ぐ第三位ではあるが、他の諸君の手渡し船の操縦と異り大型船で自動車を渡す勞苦は並大抵のことでない。今表彰せられたる修路工夫十一名の氏名と渡船夫四名の事績を挙げ、聊かなりとも諸君の勞を慰め重大時局下一段と職域に御奉公あらむことを祈る。

昭和十七年紀元節の夜表彰式に列し益田の旅館にて記す

記

修路工夫

- 吉野元光
 平井久雄
 金山庄次郎
 藤原和四郎
 稻田富藏
 谷口作右衛門
 塚田武夫
 大谷義市
 佐々木繁一
 木村富男

伊藤權治
 渡船夫 反田伊太郎
 青木六市

品川民次郎
 澄川久太郎

府縣道溫泉津可部線邑智郡川下村入會
 江川尾原渡船場

邑智郡川下村

反田伊太郎 六十八歳

明治八年六月一日生



志操堅實ニシテ明治三十年村營時代ヨリ當渡船場ノ渡船請負人トナリ大正十一年縣營ニ移管シ現在ニ至ル迄四十五年ノ久シキニ互リ克ク職責ヲ貴ヒ他事ニ惑ハス忠實以テ業ニ服シ未タ嘗テ事故アリシコトヲ聞キタルコトナシ

渡船ハ洪水時ノ外休業スルコトナク又從業時間ハ拂曉ヨリ深更ニ及フ長時間ナリ 青春二十三歳ノ頃ヨリ六十八歳ニ至ル迄寧日ナク炎熱灼クカ如キ日モ或ハ寒風皮膚ヲ裂クカ如キ日モ敢テ勞苦ヲ厭ハス夜々トシテ奔流ニ棹シ交通連絡ヲ確保セシ業績ハ頗ル顯著ニシテ他ノ模範ト爲スニ足ルヲ以テ之ヲ表彰シ多年ノ勞苦ヲ慰メントス

府縣道八代江津線邑智郡吾郷村入會
江川船津渡船場

邑智郡谷住郷村

青木 六市 五十九歳

明治十七年十月二十日生

志操堅實ニシテ明治三十六年村營時代ヨリ當渡船場ノ渡船請負人トナリ大正十二年縣營ニ移管シ現在ニ至ル迄三十九年ノ久シキニ互リ克ク職責ヲ貴ヒ他事ニ惑ハス忠實以テ業ニ服シ未タ嘗テ事故アリシコトヲ聞キタルコトナシ

渡船ハ洪水時ノ外休業スルコトナク又從業時間ハ拂曉ヨリ深更ニ及フ長時間ナリ 青春二十歳ノ頃ヨリ漸ク老境ニ入ラントスル五

十九歳ニ至ル迄寧日ナク炎熱灼クカ如キ日モ或ハ寒風皮膚ヲ裂クカ如キ日モ敢テ勞苦ヲ厭ハス夜々トシテ奔流ニ棹シ交通連絡ヲ確保セシ業績ハ頗ル顯著ニシテ他ノ模範ト爲スニ足ルヲ以テ之ヲ表彰シ多年ノ勞苦ヲ慰メントス

府縣道泊淵川本線邑智郡吾郷村江川吾郷渡船場

渡船請負人

邑智郡吾郷村

品川 民次郎

五十九歳

明治十七年

四月十七日生

志操堅實ニシテ明

治四十二年村營時

代ヨリ當渡船場ノ

渡船請負人トナリ

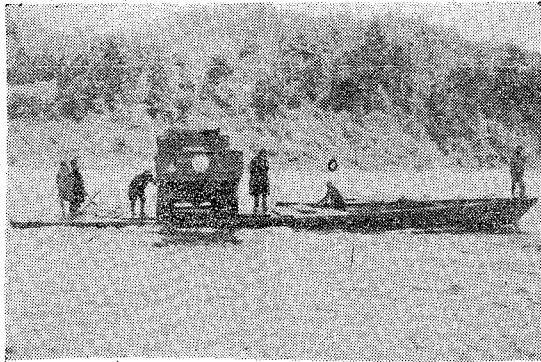
其後郡營ヲ經テ大

正十二年縣營ニ移

管シ現在ニ至ル迄

三十三年ノ久シキ

ニ互リ克ク職責ヲ貴ヒ他事ニ惑ハス忠實以テ業ニ服シ未タ嘗テ事故アリシコトヲ聞キタルコトナシ



渡船ハ洪水時ノ外休業スルコトナク又從業時間ハ拂曉ヨリ深更ニ及フ長時間ナリ青春二十五歳ノ頃ヨリ漸ク老境ニ入ラントスル年十九歳ニ至ル迄寧日ナク炎熱灼クカ如キ日モ或ハ寒風皮膚ヲ裂クカ如キ日モ敢テ勞苦ヲ厭ハス孜々トシテ奔流ニ棹シ交通連絡ヲ確保セシ業績ハ頗ル顯著ニシテ他ノ模範ト爲スニ足ルヲ以テ之ヲ表彰シ多年ノ勞苦ヲ慰メントス

府縣道日原益田線美濃郡眞砂村

四見川須川渡船場請負人

美濃郡眞砂村

澄川久太郎 六十五歳

明治十一年十月十一日生

志操堅實ニシテ昭和五年當渡船場ノ渡船請負人トナリ現在ニ至ル迄十二年ノ久シキニ互リ克ク職責ヲ責ヒ他事ニ惑ハス忠實ヲ以テ業ニ服シ未タ嘗テ事故アリシコトヲ聞キタルコトナシ
渡船ハ洪水時ノ外休業スルコトナク又從業時間ハ拂曉ヨリ深更ニ及フ長時間ナリ

五十三歳ニシテ渡船請負人トナリ六十五歳ノ老境ニ至ル迄寧日ナク炎熱灼クカ如キ日モ或ハ寒風皮膚ヲ裂クカ如キ日モ敢テ勞苦ヲ厭ハス孜々トシテ奔流ニ棹シ交通連絡ヲ確保セシ業績ハ頗ル顯著ニシテ他ノ模範ト爲スニ足ルヲ以テ之ヲ表彰シ多年ノ勞苦ヲ慰メントス

○若葉吟社詠草

戰捷の感激深くさし木かな
かゞみ探る磯海苔の香や濤しぶき
雪崩耳に終日ありぬ山晴れて
入學の今日喜びぞ窓明くる
風晴れし鎌倉山の椿かな
垣隣白く咲きたる椿かな
汽車過ぎて後の静かや畑打つ
故郷を偲べる庭の椿かな
薔薇垣の整ふ今日を挿し木哉
しびすつて海苔舟ついと突き入りぬ
風晴や通路も交ちる渡し船
繪のやうに通路過ぎ行く京の町
大いなる希望に榮へて入學兒

静風 同 如水 同 浅茅 同 翠山 同 農鳥 同 葦郷 同 野狐禪 同